

DOCTOR!

鳥取の地域医療を考えるマガジン ードクトリ！ー

vol.

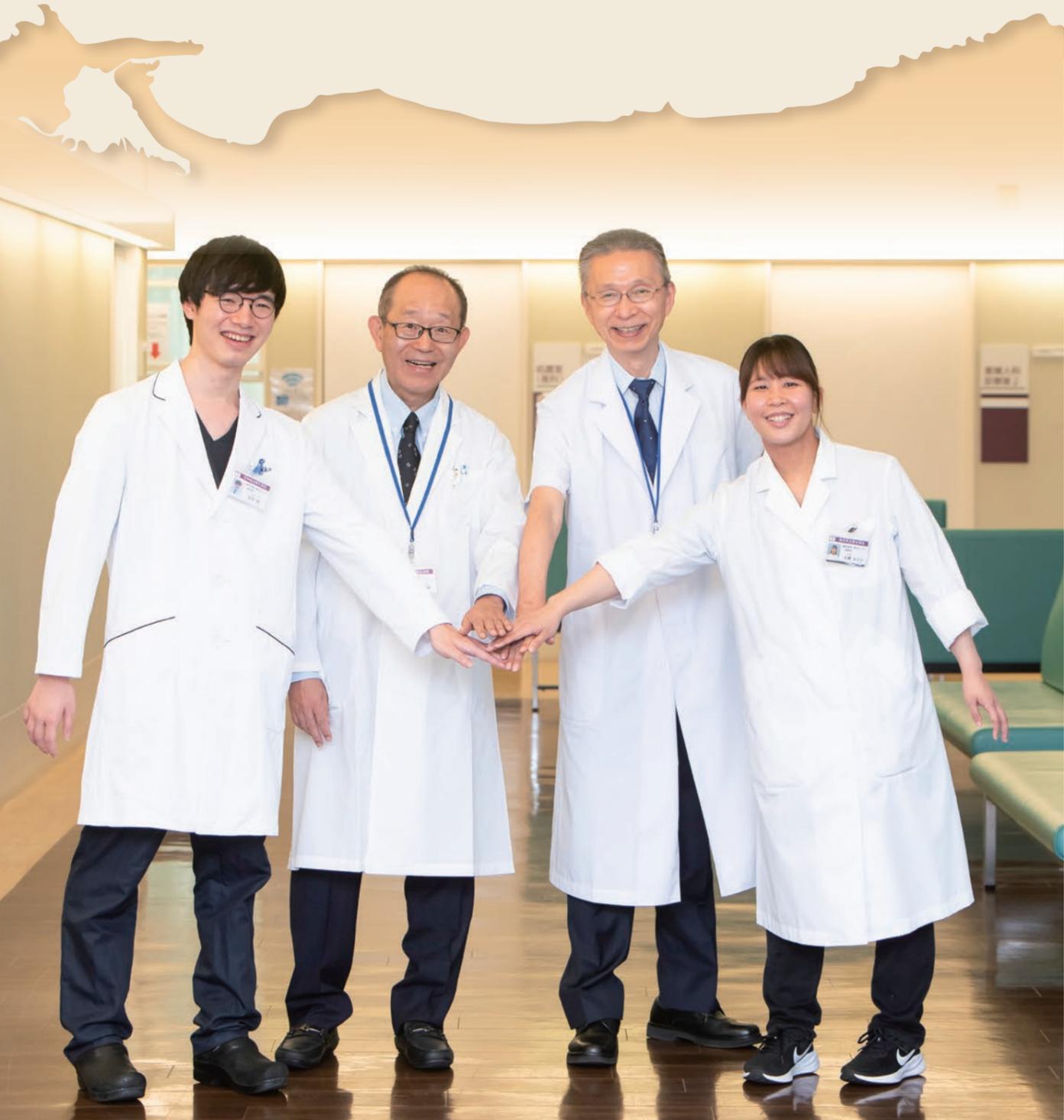
12

2025 / Winter

DOCTOR!

第12号 2025年1月発行 鳥取県地域医療支援センター

※本誌掲載の写真、図版、記事などの無断転載を禁じます。



特集1

鳥取県立厚生病院 院長・副院長・臨床研修医
中部地域医療座談会

特集2

鳥取県で医師のキャリアを築く！
私のキャリア紹介
～専門研修プログラム基本領域別～ vol.2 小児科・皮膚科編

鳥取県地域医療支援センターからのお知らせ

NEWS 1

医学生スプリングセミナー in鳥取2025を開催!

鳥取県の地域医療を体験してみませんか?

- 開催期間** 2025年2月下旬～3月下旬(予定)
- 対象施設** 県内の医療機関 約40施設
(総合病院、自治体立病院や診療所など)
- 参加費** 無料
(※交通費、宿泊費の助成あり)

鳥取県では、県内外の大学の医学生を対象に、県内の地域医療の現場に触れて、地域医療への関心を高めていただくため、医学生スプリングセミナーを開催します。

県内の様々な特色のある医療機関で、地域の医療現場を体験できる貴重な機会です。多くの皆さまのご参加をお待ちしています!

応募方法等の詳細は、鳥取県医療政策課ホームページをご覧ください。

※医学生サマーセミナーも8～9月頃に開催します。

応募方法等の詳細はこちらから!

<https://www.pref.tottori.lg.jp/238708.htm>



NEWS 2

第4回キャリア講演会 (予告)

「奨学金制度を利用した先輩医師は、どこでどんなふうにいるの?」という医学生の疑問にお答えするために、キャリア講演会を今年も開催します。

鳥取県奨学金制度を活用され、現在様々な分野で活躍中の卒業医師に、これまでのキャリアをお話しいただきます。

在学中の地域卒学生や奨学金制度利用をお考えの皆さんの参加をお待ちしています!

開催日時 2025年2月7日(金) 18時頃から

会場 鳥取大学医学部記念講堂

申し込み方法など詳しくは、鳥取県地域医療支援センターWebサイト「お知らせ」をご覧ください。1月のメールマガジンでも配信予定です。

鳥取県地域医療支援センターについて

鳥取県地域医療支援センターは、鳥取県・鳥取大学医学部附属病院が連携し、鳥取県の地域医療の充実・発展のために2013(平成25)年1月に設置されました。私たちは、鳥取県の医師不足解消のために、地域卒などの医師のキャリア形成支援や医師の地域偏在解消に取り組んでいます。専任医師も勤務しており、皆さまのご相談などを伺っています。



ご相談や
お問い合わせは
こちらまで

鳥取県の医療・
奨学金制度に関すること

鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857-26-7195 FAX 0857-21-3048

医師のキャリア形成・
相談に関すること

鳥取大学医学部附属病院 鳥取県地域医療支援センター
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL 0859-38-7005 FAX 0859-38-7006

とっとりドクター Naviのご登録を受付中!

鳥取県の地域医療に関心をお持ちの全国の高校生・医学生・研修医の皆さまに役立つ県内の医療情報や勤務に関する情報、医師としてのスキルアップに関する情報として、「DOCTOR!」やメールマガジンをお届けします。どなたでもご登録いただけます。

とっとりドクター Navi

登録申込フォーム ▶▶▶

<https://www.pref.tottori.lg.jp/273080.htm>



※なお、ご登録情報の変更についても、登録申込フォームで承っております。

広報誌名
『DOCTOR!』の由来

「DOCTOR」と「鳥取県」を合わせた造語です。医師の皆さんに、鳥取県で活躍してほしいという願いが込められています。

編集発行

鳥取県地域医療支援センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1(鳥取大学医学部附属病院内)
TEL 0859-38-7005 FAX 0859-38-7006
Eメール: t-chiikicen@med.tottori-u.ac.jp
Webサイト: <https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/t-chiikicen/>



□ 制作/有限会社キワード 〒680-0051 鳥取県鳥取市若桜町39 ロゴス文化会館1F TEL 0857-29-4018

「DOCTOR!」の
バックナンバーは
こちら▶▶▶



中部地域医療座談会

1市4町で構成される鳥取県中部エリアは、自治体立の医療機関は鳥取県立厚生病院ただ1つのため、東・西部とは医療事情が異なります。座談会シリーズ・第5弾は、同院から院長、副院長、そして臨床研修医の先生方に集まっていただき、エリアならではの地域医療の特徴や課題、臨床研修の様子などを語っていただきました。

利点を生かし、若手へつなぐ希望



臨床研修1年目
(鳥取大学特別養成卒業医師)
なびか よう
並河 陽 先生

鳥根県安来市出身。2024年鳥取大学医学部医学科卒業。医師として働き始め、自分が発する言葉の一つ一つに責任の重さを感じる日々を送る。仕事に専念する一方で、医療とは違う世界にいる人々と交流する機会を積極的に持ち、自分のバイアスをなくすよう意識している。

臨床研修2年目
(自治医科大学卒業医師)
ながれ
永禮 あすか 先生

鳥取県琴浦町出身。2023年自治医科大学医学部医学科卒業。修学旅行先での体調不良で現地の医師に助けってもらった経験から、医療に関心を抱く。診療に必要な知識のアップデートに努め、主訴の裏に隠れた疾患を見逃さないよう心がけている。

副院長、脳神経外科部長、臨床研修・教育センター長
かみたに ひでき
紙谷 秀規 先生

鳥取県米子市出身。鳥取大学医学部卒業。同大学院医学研究科博士課程修了。1994年より同医学部附属病院に勤務。2009年鳥取県立厚生病院副院長、脳神経外科部長に就任。17年より臨床研修・教育センター長を兼任、臨床研修医・専攻医の指導にも尽力している。

院長
はなき けいいち
花木 啓一 先生

鳥取県若桜町出身。山口大学医学部卒業。鳥取大学大学院医学研究科博士課程修了。同医学部附属病院小児科に長く勤務。派遣医師として鳥取県立厚生病院の小児診療にも25年以上携わる。小児の内分泌・代謝を専門とし、小児肥満の研究はライフワーク。2023年4月から現職。

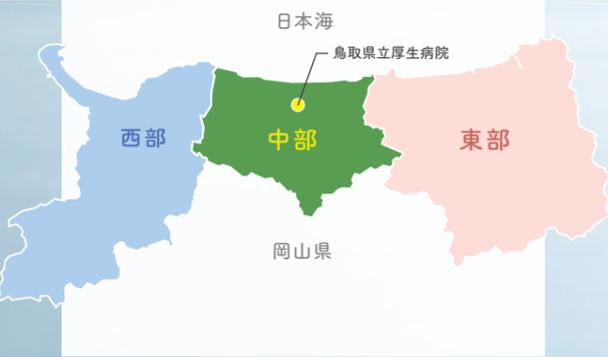
倉吉市



鳥取県立 厚生病院

診療科 22科 病床数 304床

県中部地域における唯一の公的病院として、高度医療や救急医療、がん医療、周産期・小児医療、災害医療等において中心的な役割を果たす。急性期・救急医療は岡山県北部からも受け入れ。2013年に厚生労働省により地域がん診療連携拠点病院指定、18年には鳥取県より地域医療支援病院の承認を受け、地域の医療機関と連携して医療の充実を図るとともに、退院支援、退院前・退院後訪問にも注力し、患者と家族に寄り添った支援を展開している。



県中部唯一の公的病院として求められる医療とは

▼花木 県中部地域は倉吉市を中心に、周辺には湯梨浜町、三朝町、北栄町、琴浦町の4町があり、人口約10万人弱という医療圏です。しかし、公的病院はこの鳥取県立厚生病院のみ。そして、救急・高度急性期・周産期・小児医療の病床は当院しかありませんので、地域から求められるものは非常に大きい。

▼紙谷 岡山県北部の医療も一部担っていて、そこから救急患者が来ます。24時間・365日、切れ目なく医療を提供するという使命感を抱き、年間2500台近い救急車搬送を受け入れています。ですから、この地域に住んでおられる方々は「困ったら厚生病院」という認識を持っておられますよね。

▼並河 僕は今ちょうど救急科で研修中ですが、先生方がおっしゃったとおり、唯一の公的病院として地域の方々から絶大な信頼を得ていると感じています。特に小児科はその傾向が強く、救急外来への来院が多いですね。幅広く受け入れている病院なのかなと。

▼永禮 私もそう感じていますが、私が救急科で研修していたときは、よく岡山県北部から救急車が来ていました。でも、入電から当院に到着するまで搬送に1時間くらいかかることもあるということに、働いて初めて気付きました。その間に病状が改善していることもあります。逆に悪くなっていることも。そういう状態の方が来院されるという、結構難しいところに立たされている病院だと思いました。

その他にも、多くの患者さんが自力で救急外来に来られるので、あらゆる疾患について広く知っている必要があるという現状も知りました。

▼花木 地域の要請から、当院では救急の比重が大きいですね。はじめから三次救急に相当すると分かっているケースは東部・西部の救命救急センターに送りますが、その少し手前までは当院で対応します。臨床研修医や専攻医の皆さんはファーストタッチで様々な症例に対応するので、この経験は貴重な財産となるはず。研修環境としては恵まれているのではないですか。

将来の地域派遣を見据え、
計画的にスキルを習得

▼紙谷 当院での臨床研修はいかがですか。

▼永禮 内科は消化器、呼吸器、循環器など6つの科があり、1年目の前半に全ての科を回り、後半は救急科や外科などを回りました。

一つの科に研修医が1人なので、指導医の先生に手厚く見ていただけるのがありがたいですね。経験すべき症例があったらすぐに呼んでくださり、処置を見学したり胃カメラをやらせていただいたりしました。

▼並河 僕も内科で胃ろう交換時のカメラ持ちなどを経験しました。また、病棟管理を任せていただき、約10人の患者さんを担当しました。

当然全ての責任を負っているわけではないので、休日に呼び出しの電話がかかっても僕が行く必要はないのですが、せっかく担当させてもらったので患者さんの様子を見に行きました。実際に3年目以降の勤務はこんな感じなのかとか、1年目ではなかなかできない経験をさ



せていただいているので、ここで研修できて良かったです。

▼花木 早めに責任ある仕事をさせてもらっているんですね。将来は中山間地域の医療に携わることになりますが、先輩方からアドバイスがありましたか。

▼並河 「いずれ地域に出るなら、こういう手技ができたほうがいい」「これは自分でやることになるよ」といったアドバイスを頂きました。

▼永禮 地域に出るにあたり、消化器の内視鏡はできるようにならなくてはいけないと学生時代から分かっていたんですが、

地域とつながる医療に 必要なのは奥行きある診療

実は魅力がいっぱい！
鳥取の地域医療と暮らし

▼花木 中規模の当院は医療者の数が多すぎず、ワンチームを形成しやすい環境です。ゆえに診療科や医療者間の垣根が低く、顔の見える関係が構築し

やすい。人間関係を大切にしながら臨床研修をしたいという若手医師にお勧めです。臨床研修から専門医研修までの約5年間は、「医師としての一生をどう過ごすか」という最初の方針を見つめる時期。医師や医療スタッフ、患者さんなど様々な人との出会いは「一期一会」ですから、そこらにいるいろんなことを吸収し、医師としての基礎を築いていただきたいですね。

▼紙谷 病気という「点」だけで見れば適切な治療を施すのみでいいかもしれませんが、しかし、患者さんの背景には仕事があり、家族があり、地域での暮らしがあります。退院されてこれまでどおりに暮らせるのか、どのようなペースで受診するのか、介護者にはどんなアドバイスをするのか、患者およびその家族の将来まで見据えた生活プランを「線」として考えて診療することが地域医療には必要です。それを見通せる医師に成長して

1年目は積極的にはできていないけど……。だから、この冬に再び消化器内科を回って内視鏡をやらせていただこうと思っています。

診療を通じて見えてきた 中部地域の医療課題

2年目は自分で選択できる科が多く、ほぼ希望どおりにやらせてもらっています。

▼紙谷 臨床研修医が大勢いるわけではないので、ある程度フレキシブルに組めるのも当院のメリットですね。

▼花木 臨床研修を通して、このエリアの医療課題について何か思うところはありますか。

▼並河 やはり救急の話になるんですが、内科の先生と一緒に救急外来に入らせてもらったとき、ひっきりなしに入電があり、次から次に救急車や患者さんが来られるので、対応しきれない状況を経験しました。平和な日はいいけど、忙しい日は絶対に1人では診療が回らない。中部地域の医師不足は間違いなくあると感じました。

▼花木 中部圏域の人口10万

もらうことを期待しています。

一方、医療者自身にも生活の基盤があります。地域の人口減少、人口流出の現状に鑑み、住みたくなくなるような魅力ある地域がつくられなければ、そこに医師は長く定着できません。行政にはぜひともこうした側面もご理解いただきたいと思っています。

▼並河 僕は当院だけでなく、この地域での暮らしにも魅力を感じていて、湯梨浜町にあるシェアハウスに住んでいます。同居人は、北海道や関西など県外からやって来た面白い人ばかり。町自体に「ターナー」が多く、カ

人当たりの医師数は約220人と、東部の約250人、西部（鳥大病院を除く）の約240人よりもうんと低い。慢性的な医師不足が課題です。

▼永禮 私も同じようなことを経験しました。救急外来への患者さんで、かかりつけの病院に救急外来があるにもかかわらず初診の当院に来られるというのが結構あって、事情を尋ねると、「かかりつけの病院が救急外来をしているのを知りませんでした」と。周知が足りていないと感じました。

▼花木 時間外受診は、この地域では病院と診療所がほぼ半々を担当していて、病院の中では当院がそのほとんどを担当しているというのが現状です。これには住民の受療行動、医師不足などの複合的な要因が関係していますが、皆さんはここでとても貴重な経験をされたのだと思います。

▼紙谷 そういった経験の中で、なぜこういう状況になっているのかと広くアンテナを張り、地域の医療事情全般にも目がいつているのはすごくいいと思います。

▼花木 シェアハウスで暮らすというのは珍しいですね。

▼並河 都会で働き始めた友達に話すと、「鳥取って楽しそう」と言う子もいます。いろんな働き方ができると分かれれば、意識が変わる人もいるのかなと。永禮先生はいかがですか。

▼永禮 私は「住めば都」というタイプなので(笑)。でも、県内の職業の選択肢が少なくて地元で帰れないという若者が多いのではないのでしょうか。将来地元で働きたいと考えるなら、地域医療に携わる医師も一つの選択肢にしてくれたらいいと思います。

▼並河 確かに。手厚いサポートがあり、いい環境で仕事をすることができずから。

▼紙谷 鳥取県民はご自身の地元に対して謙虚で、極めて控えめな評価をされるのがもったいない気がします。「鳥取県はとてもの良いところですよ」と感じながら、地域医療を盛り上げていきたいですね。



検査結果について患者さんに説明を行う並河先生。一つ一つ言葉を選びながら、分かりやすい説明を心がけている。



シミュレータを使って内視鏡検査のトレーニングに励む永禮先生、並河先生。異常を見落とさないことはもちろん、スムーズに操作できるような手技を磨く。



鳥取県で医師のキャリアを築く! 私のキャリア紹介

～ 専門研修プログラム基本領域別 ～

専門医・専攻医の先生方が実際にどのように専門研修に取り組まれたか、そして今後のキャリアをどう捉えておられるかを専門研修プログラムの基本領域ごとに、シリーズでご紹介します!



Vol.2

-小児科・皮膚科編-

県内小児科・皮膚科専門研修プログラム紹介

鳥取大学医学部附属病院

小児科/脳神経小児科専門研修プログラム

皮膚科専門研修プログラム



お問い合わせ 鳥取大学米子地区事務部総務課専門研修等係 TEL: 0859-38-7005 e-mail: senmoni@ml.med.tottori-u.ac.jp

専門研修を振り返って

皮膚科は老若男女問わず幅広い年代の患者さんを診ることができ、自分の目で見て触って診断することが面白いなと思います。皮膚科専門研修プログラムを選択しました。

皮膚科専門医は、一般的に研修期間が5年ほどかかるため、焦らずゆっくり準備することができ、女性医師も多く勤務形態も様々なので、非常に働きやすい環境となっています。

市中病院の研修ではコモンディージーズ(出会う頻度の高い疾患・病態)も多く診ることができ、若いうちからたくさん経験を積むことができ、良かったです。

専門研修を振り返って



鳥取県立中央病院 皮膚科

いしはら けいたろう 石原 啓太郎 先生

臨時養成枠

選抜方法

鳥取大学医学部医学科 一般選抜(前期日程)地域枠

鳥取県米子市生まれ。2018年3月、鳥取大学医学部医学科卒業。



今後の抱負

皮膚科専門医取得後は、もともと興味があった皮膚悪性腫瘍、皮膚外科領域についても勉強できたらいいなと思っています。

県内の皮膚科医は決して多くないため、専門的な疾患だけでなく、一人一人の患者さんに寄り添って幅広く診療できる医師になりたいです。

今後の抱負

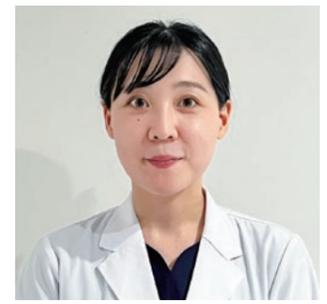
今後の抱負

小児科はサブスペシャリティの選択肢が多く、魅力的な分野がたくさんあるので、まだ迷っているところです。まずは

県立中央病院の臨床研修を経て、小児科に進みたいと考え、鳥取大学の小児科専門医研修を選択しました。

専門研修の3年間では、鳥取大病院、県立厚生病院、県立中央病院で1年間ずつ研修し、市中感染症から稀少疾患まで様々な症例を経験することができました。上級医の指導体制も整っており、大変充実した研修だと思っています。

専門研修を振り返って



鳥取県立中央病院 小児科

むろが ちか 室賀 千佳 先生

臨時養成枠

選抜方法

鳥取大学医学部医学科 一般選抜(前期日程)地域枠

群馬県高崎市生まれ。2020年3月、鳥取大学医学部医学科卒業。



専門医を取得し、その後は選択した分野を中心に幅広く小児医学を学びたいです。

そして、子どもはもちろん、保護者の思いにも寄り添いながら、その子にとって最適な医療は何であるかを広い視野で考え、実践できる小児科医になりたいです。

石原先生のキャリアパス



臨時養成枠の卒業後従事要件

- 臨床研修: 県内に限定
- 地域勤務: 臨床研修修了後、9年間のうち6年間に県内指定病院で勤務

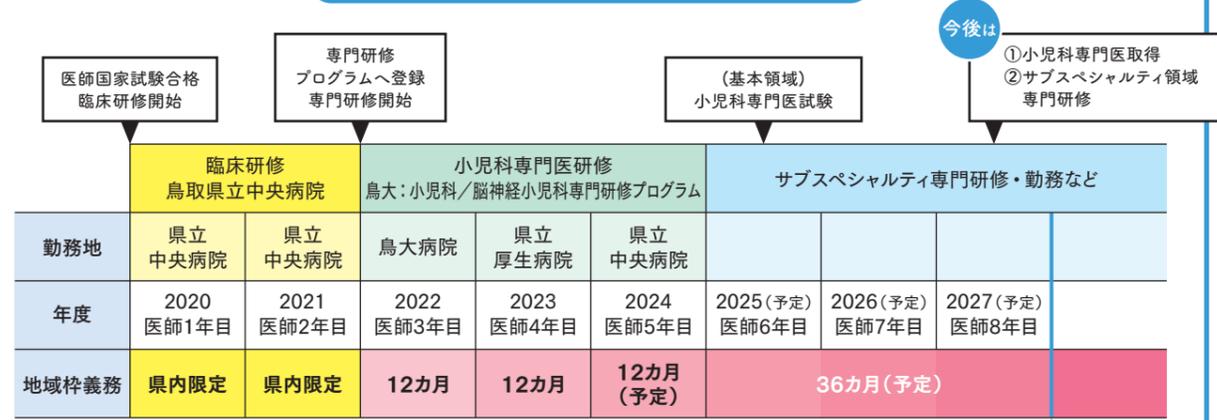
※2022年度以降の入学生: 臨床研修開始後12年間のうち、9年間に県内指定病院で勤務、かつ、うち4年間は知事指定区域での勤務が条件。

※詳細は鳥取県キャリア形成プログラムを参照 (<https://www.pref.tottori.lg.jp/317209.htm>) →



2026年3月末日
従事要件
達成見込み

室賀先生のキャリアパス



臨時養成枠の卒業後従事要件

- 臨床研修: 県内に限定
- 地域勤務: 臨床研修修了後、9年間のうち6年間に県内指定病院で勤務

※2022年度以降の入学生: 臨床研修開始後12年間のうち、9年間に県内指定病院で勤務、かつ、うち4年間は知事指定区域での勤務が条件。

※詳細は鳥取県キャリア形成プログラムを参照 (<https://www.pref.tottori.lg.jp/317209.htm>) →



2028年3月末日
従事要件
達成見込み

中山間地域の医療現場を体感！ とっとりの総合診療医と地域医療にふれるツアー

2024年8月、鳥取県が実施する「医学生サマーセミナー」のオプション企画として、中山間地域で働く総合診療医や地域医療の現場にふれてもらうツアーを実施しました。
鳥取の未来の地域医療を担う医学生生の皆さんに将来を考えていただく機会となりました！



見学をした際、手術室や内視鏡などの設備が整っていて、今まで持っていたへき地医療のイメージとは異なっていた。(2年生)

それぞれの先生方が考える「地域医療」についてお話をうかがい、哲学を語り合っているようで、興味深かった。(1年生)

無医地区に月に1度行う巡回診療では、地域の支え合いがうかがわれ、とても温かい気持ちになった。(1年生)

診察では病気を診ることに加え、患者さんの生活環境、家族構成、社会的背景など多くのことに目を向ける必要があり、総合診療医には医学的知識に加えコミュニケーション能力や様々なことに気を配る力が求められると感じた。(3年生)

先生方が誇りを持って働いている姿を拝見し、総合診療科は苦楽含めて奥深く面白い診療科だと感じた。(1年生)

実際に特別養成卒卒の先生が働いている現場を拝見することができ、卒後のイメージが持てた。(2年生)

実際の診療の様子を見学し、病気だけではなく、家族や生活背景などを含めて患者さんに寄り添い、一緒に解決策を見つけていくとても温かい雰囲気での診療が心に残った。(1年生)

地域医療を肌で感じた学生たちの声
参加者アンケートより

1度は行くべし! TOTTORI★イチョオシ名鑑

地元の魅力を知り尽くす謎の編集部員「SR」が、観光地とグルメを毎月1カ所ずつご紹介しします。せっかくの鳥取LIFE、楽しまなきゃ損ですよ!

Enjoy Tottori life!



素朴な竹が幻想的な灯籠に! 円筒に広がる光の小宇宙

キラキラの光あふれる円筒形の灯籠は、実は竹製。中が空洞になっている竹の特徴を生かし、図案どおりにドリルで大小の穴をあけるだけなので、ものづくりに自信がない方でも大満足の作品が出来上がります。図案のテンプレートが多種多様にあるので、お好みを選ぶもよし、自分で自由に描いてもよし。

さらに楽しいのは、あけた穴にビーズやビー玉を貼り付けてデコれちゃうこと(追加料金)。まるでイルミネーションのようにカラフルに輝いて、自分の作品がからウツリしちゃいますよ♡



竹灯籠工房



住 東伯郡湯梨浜町引地563-1 道の駅燕趙園隣
☎ 080-8240-9893
営 9:00~17:00(体験は~15:00)
休 不定休 ※事前に電話でご確認ください
¥ 2,000円~
P あり(無料)
🚗 JR倉吉駅から車で約10分



箸やスプーンなど他にもいろいろな物が作れるんだって!



あらた とんかつ新



▲ロースかつ定食(130g) 1,738円

住 八頭郡若桜町若桜298
☎ 0858-71-0002
営 平日11:00~14:00(LO13:30)
土日祝11:00~15:00(LO14:30)
休 月曜日、第3日曜日、年末年始
P 若桜鉄道若桜駅横の駐車場をご利用ください(無料)
🚗 若桜鉄道若桜駅から徒歩で約4分

甘キタレがしみ込んだ豚トロ角煮もオススメ!



固定観念が吹っ飛ぶ旨さ! これがウワサの“白い”ヤツ

あっと驚く白っぽい衣での登場に、「まだ揚げてない?」との心配はご無用! 熱々の衣はサクッとした食感、豚肉はやわらかく極上な旨味がジュワ〜と広がります。その秘密は、パン粉専門店から仕入れるこだわりの生パン粉、米油メインのブレンド揚げ油を使用し、熱伝導のいい銅鍋でじっくり低温調理をしているから。

そして自慢の豚肉は、店主の父が丹精込めて育てた若桜産の吉川豚。赤身と脂身のバランスが良く、肉の甘味が際立っています。ソース・岩塩・出汁醤油付き、お好みの味で楽しんでみて♪



若手医師・医学生REPORT

DOCTORI!のタマゴ

「これから“DOCTORI!”になるぞ」と頑張っている先輩たちに、これまでの歩みや現在の様子を聞いちゃいました!

故郷の整形外科診療への貢献を目指して



鳥取赤十字病院
臨床研修1年目
ありとう ともき
有藤 朋樹 先生
1999年 鳥取県米子市生まれ
2024年 鳥取大学医学部医学科 卒業
2024年 鳥取赤十字病院 臨床研修医

私は、生まれ育った地で働きたいという思いから地域枠で鳥取大学に入学し、そして臨床研修先として鳥取赤十字病院を選びました。当院は研修プログラムの自由度が高く、二次救急病院としてコモンデージェーズ(出会う頻度の高い疾患・病態)の診療を数多く経験することができる上、救急研修は他院の三次救急病院で学べることで、福利厚生の実など、とにかくいいところがたくさんある病院です。



実は研修生活を送ることができています。1年目は必修の内科や救急を中心に勉強し、2年目からは志望している整形外科に合わせた選択科で研修したいと考えています。鳥取県民全員の骨折は治せませんが、自分の手が届く範囲の骨折は治せる医師になりたいと思っています。



仕事の疲れを癒す
地元のラーメン

当直明けの日は鳥取市内で、休日は帰省ついでに米子市内でラーメンを食べ歩いて疲れを吹き飛ばしています。次郎系、牛骨、魚介など様々な種類があるから、リピートしたい店、これから行ってみたい店などがまだまだたくさん。楽しみが尽きません!

地元とのつながりがあるから頑張れる



岡山大学
医学部医学科 6年
うえだ みやこ
上田 宮瑚 さん
2000年 兵庫県豊岡市生まれ
2019年 米子東高等学校 卒業
2019年 岡山大学医学部医学科 入学

私が岡山大学の鳥取県臨時養成枠を選択したのは、県外の大学で学んだ後に医師として地元に戻り働ける進路だったからです。地元から離れることにより視野が広がり、そこで得た学びを故郷に還元できると考えました。



感動の一瞬を撮影
レタッチも勉強中

私の趣味は、ミラーレス一眼カメラでの写真撮影です。心が動いた瞬間を自分の感性で表現できるのが魅力。忙しい中でもリフレッシュできる大切な時間で、愛猫やプロバスケットボールチーム「鳥根スサノオマジック」の選手を撮って楽しんでいます。